

2026 年 8 月 27 日

各 位

会 社 名 ダイドグループホールディングス株式会社
代表者の役職氏名 代 表 取 締 役 社 長 高 松 富 也
(コード番号：2590 東証プライム市場)
問 い 合 せ 先 コーポレートコミュニケーション部長 鎌野 公洋
電 話 番 号 06-7166-0077

2027 年 1 月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向および今後の見通しを踏まえ、2027 年 1 月期（2026 年 1 月 21 日～2027 年 1 月 20 日）の通期業績予想について、下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2027 年 1 月期 通期連結業績予想の修正（2026 年 1 月 21 日～2027 年 1 月 20 日）

	連 結 売 上 高	連 結 営 業 利 益	連 結 経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純損益	1 株当たり 連結当期純損益
前 回 発 表 予 想 (A)	百万円 246,800	百万円 10,500	百万円 8,400	百万円 5,000	円 銭 157.73
今 回 発 表 予 想 (B)	246,300	12,300	9,400	6,000	189.25
増 減 額 (B - A)	△500	1,800	1,000	1,000	
増 減 率 (%)	△0.2	17.1	11.9	20.0	
(参考) 前期連結 実 績 (2026 年 1 月期)	241,236	4,163	1,467	△30,322	△957.83

(注) IAS 第 29 号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、会計上の調整をすることとなります。今回発表予想において、この調整による影響額の予想値として、売上高は 16 億円増加、営業利益は 11 億円減少、経常利益は 38 億円減少、親会社株主に帰属する当期純利益は 35 億円減少を織り込んでいます。

2. 修正の理由

2027 年 1 月期 第 2 四半期（中間期）連結会計期間において、海外飲料事業はトルコ子会社の販売好調を主因に、売上高およびセグメント利益ともに中間期として 4 年連続で過去最高を更新しました。また、主力事業である国内飲料事業においても、前期に計上した減損損失に伴う減価償却費の減少に加え、収益改善施策の着実な進展などにより、前年同期と比べて大幅な増益となりました。

第 3 四半期以降は、各事業において中東情勢を背景とした原材料価格などのコスト上昇の影響が顕在化するほか、トルコ飲料事業において中長期的な成長に向けたブランド強化のためのマーケティング投資を行う予定です。一方、国内飲料事業においては引き続き収益改善施策に取り組

むことで、その効果は継続する見込みです。

こうした状況を踏まえ、2026年3月4日に公表した2027年1月期通期連結業績予想を修正することといたしました。

当社グループを取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いていますが、中期経営計画2026の最終年度として、国内飲料事業における収益改善を確実なものとするとともに、将来の成長に向けた投資を着実に実行し、持続的な成長の実現に取り組んでまいります。

3. その他

業績予想にあたっては、トルコにおける2026年末時点のインフレ率予測を28.6%（期初想定：21%）に見直すとともに、為替レートの想定を以下のとおり変更しています。なお、トルコリラは超インフレ会計の適用により期末時点でのレートを、その他の通貨は期中平均でのレートを採用しています。

1 トルコリラ	=	3.20 円（期初想定：3.00 円）
1 ブロチ	=	42.85 円（期初想定：39.00 円）
1 中国元	=	23.26 円（期初想定：20.00 円）

（ご参考）セグメント別内訳

（単位：百万円）

	売上高			セグメント利益又は損失（△）		
	前回発表 予想	今回発表 予想	増減額	前回発表 予想	今回発表 予想	増減額
国内飲料事業	141,500	138,300	△3,200	5,200	6,250	1,050
海外飲料事業	70,000	76,200	6,200	7,800	9,200	1,400
医薬品関連事業	14,100	12,750	△1,350	650	250	△400
食品事業	20,500	18,300	△2,200	350	△300	△650
希少疾病用 医薬品事業	900	950	50	△700	△300	400
調整額	△200	△200	—	△2,800	△2,800	—
合計	246,800	246,300	△500	10,500	12,300	1,800

（注1）報告セグメントごとの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでいます。

（注2）報告セグメントごとのセグメント利益又は損失は、ロイヤリティ控除前の数値です。

（注3）海外飲料事業について、超インフレ会計に定められる要件に従い、会計上の調整をしています。今回発表予想において、この調整による影響額の予想値として、売上高は16億円増加、セグメント利益は11億円減少を織り込んでいます。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報および合理的と判断する前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上